

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年10月31日実施 Update プラン通信 第13号 小国 授業研究会

小国授業研究会 10月31日(金)
単元名:注文の多い料理店

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の授業研究会を行いました。授業者より、クライマックスでの盛り上がりや表現の工夫に着目することで、おもしろさや作者の意図等を感じ取り、読書に親しめる姿や力をつける実践について提案していただきました。齊藤先生より、言語活動の充実を目指してその本質的な部分をご指導いただきました。子どもの力を引き出し、生かすということを大事にし、教師はどのような役割を果たすべきなのかを学び、改めて自身を問い直すきっかけをいただきました。

—講座の目的—

- ①未知の問題場面に会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

授業者の実践から学ぶ 授業づくりのポイント

育成したい能力を絞る

→どんな力をつけたいのか。その柱を焦点化する。

共有・交流の価値を明確にする

→交流や共有は何のためにやっているのかを明確な目的を持つ。

言語活動の柔軟性

→言語活動そのものを子どもたちが自在に描き直していく。再集計までのプロセスを子供たちが描く。

授業者の提案

Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

【現在の子供の姿】

- ・子どもたちは「読書」から離れている。
- ・表現の工夫には気付くことはできたが、意図まで理解するには至っていない。

【知識及び技能】

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

着目させたい観点を色ごとに示す。

【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】
・言葉の意味、働き、使い方等に着目して言葉や表現のおもしろさを追求する中で、ほかの作品にも興味を持ち、進んで読書しようとする。

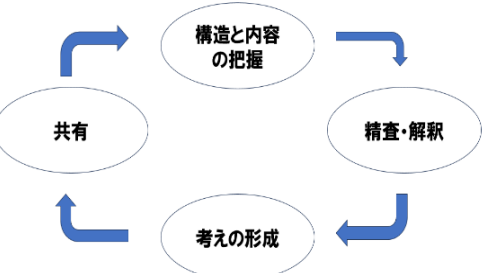
What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

【本単元で学ぶ見方・考え方】

- ・構造や 表現の工夫について、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉の自覚を高める。

【本単元で学ぶ学習過程】



読みのプロセスを回しつつ、
B 書くこと「考えの形成」「共有」につなげていく

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

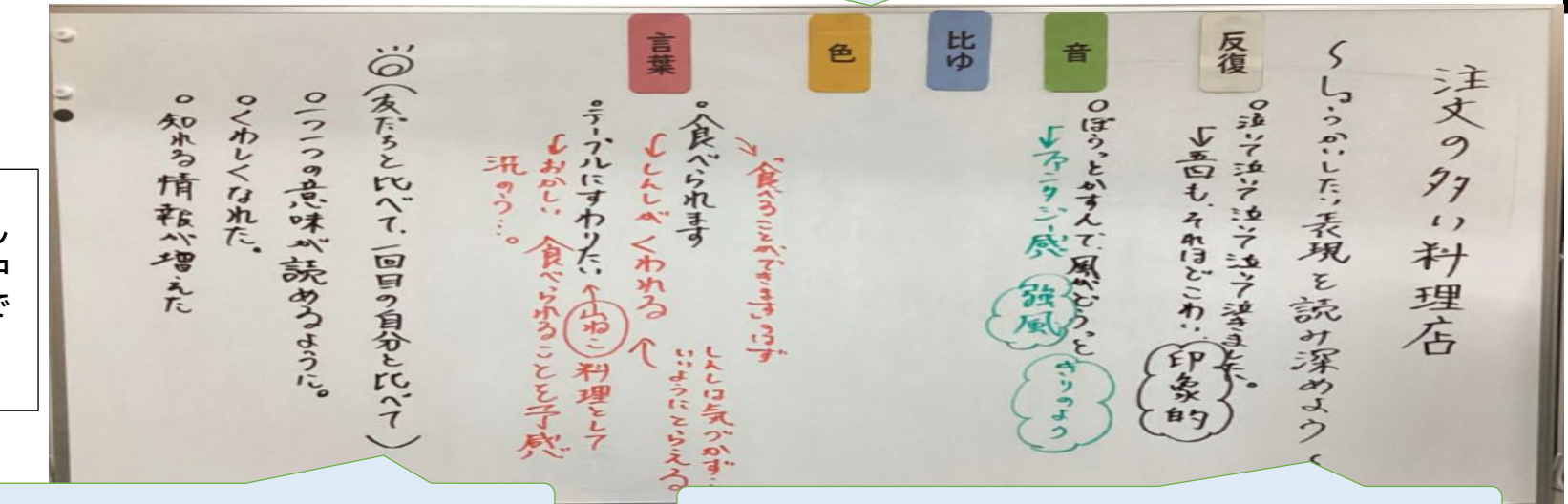
物語の構成を捉え、文中の表現や言葉の意味や使い方に着目し、クライマックスについて考え、帯を作成する。

時	学習過程	学習活動	見方・考え方
1	題材の設定	初読の感想 学習課題の設定	表現への着目
2	考えの形成	捉つけた表現を説明し、紹介文を考える	どの表現を紹介するか、どんな物語かを考える中で、学習計画を立てている
3	把握	人物像を捉えて読む	人物に関する叙述や描写をもとに人物像や相互関係を捉えている
4	把握	戸の注文と紳士の関係性を考える	戸の注文と紳士の言葉を関係づけながら、心情の移り変わりを捉えている
5	精査・解釈	構造の工夫を読む	場面分けを通して、現実世界とファンタジーの世界の境界線について、捉えたり問い直したりすることで、構造の工夫を深めている
6	精査・解釈	色や音の表現の意味について考える	文中の色使い、擬音語と紳士の心情を連ね合わせながら読むことで、より深く紳士の不安や興奮度合いを捉えようとしている
7	精査・解釈	主題を考える	物語の全体像から、物語が伝えたいことを考える
8	精査・解釈	ポップに表す表現を考える	紹介したい表現を考える活動を通して、物語の面白さの解釈を捉え直している
9・10	考えの形成	物語の中の紹介したい表現と、その効果を解説する文章(ポップ)を書く	「この表現には〇〇な意味・思いが隠れている」等表現が与えている効果を具体的に考え、ポップで伝えたい
11	共有	ポップの交流会	交流会を通して、自分にはない読みの捉え方を知り、物語の解釈を広げている

講師
NPO 法人
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事

齊藤 一弥氏

横浜市立学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取組み、成果を上げている。



自身の学びについて捉えなおす。

自分のポップづくりに最適な表現について読み深める展開を目指す。

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

What

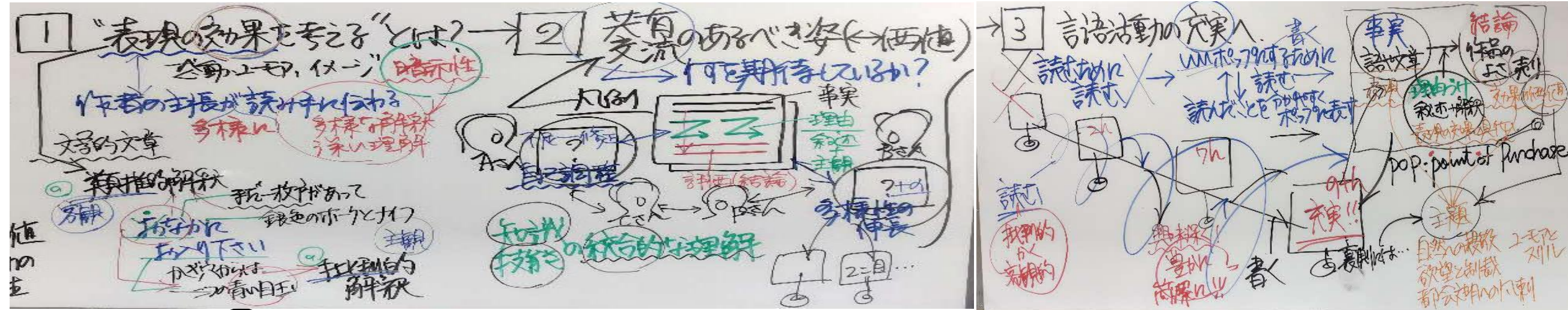
何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？



1 “表現の効果”を考えると？

ポイントは、『多様に』

○なぜ“表現の効果”があるのか？→発信者である作者の主張が、読み手に伝わる。

多様に読み手に伝わるという経験をさせたい。つまり、多様な解釈であり深い理解をしていきたい。表現の効果というものが多様な解釈を含めた読みを実現させてくれるということである。

そうした深い学びを経験していくために…

目の前にいる子供がどう学び進んでいくか、子供たちにどんな力が必要かを考える。

例：感動、ユーモアや具体的なイメージ
特に重要なのは、『暗示性』

○本教材で考えたい“表現の効果”とは？
教材によって表現の効果には特色がある。本教材は「暗示性」である。これを柱に子供たちに読み進めてもらいたい。⇒「類推的思考、解釈」と「批判的な解釈」

<類推的思考、解釈>

叙述に即して読む＝客観的な読み

<批判的な解釈>

今までの経験や知識に基づく推論＝主観的な読み

関係性
「さあさあ、おなかにはいいなさい」⇒子供たちが「お店の中だと思ったのはなぜなのか」を問いたい。
「まだ1枚戸があって」「銀色のフォークとナイフ」「鍵穴からはキョロキョロ二つの青い目玉」

新たな解釈が始まる。

表現の効果がどうしてうまれるのかを問うことが国語の授業では大切【言葉と言葉の関係性にこだわる】

叙述に即した類推的な解釈→批判的な解釈
このプロセスを大事にすることが大切

2 交流・共有の価値とは？

本文中の描写を例に考える

○「交流や共有」は何を期待しているのか？

例：「おなかにお入りください」

「おなかにお入りください【事実】」⇒「〇〇なよさ、おもしろさがある等【評価】」

⇒単元の途中で書いていきたい！

表現の効果について考えたい。

叙述に即して説明するという自らの主観を語る（類推＋批判的）

国語の学びの成果が現れる。

☆この経験を通して、凡例＝交流の視点を留意したい。

AのポップとBのポップを比較する視点

○なぜ“比較”させるのか？→書いたものをアップデートしていくため。

つまり、この比較を通して、自己調整(直すという仕事)をさせていきたい。

自分の中の多様性が伸長する。

知識・技能の統合的な理解につなげる。

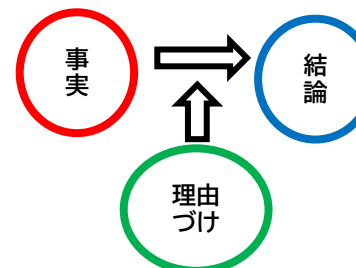
<知識>

表現の効果を比較する。
⇒「おなか」という言葉に2つの意味合いがあって、いろいろな表現の仕方がある。

<技能>

様々な理解ができる。
⇒「みんな違ってそれでいい」がゴールではない。

☆だからこそ、三角ロジックの関係性が大事になる！



どの子供たちもこの組み立て方で、ポップの内容を考えている。この経験や活動の中で、最も大事なところは、『理由づけ』の部分でちゃんと指摘できているのかどうか。

内容が違っても、同じように考えていけば、より良いポップができあがるという実感を持つために交流する。

3 言語活動の充実へ

○「読む」「書く」の相互関係を大切に言語活動へ

⇒充実させるために必要なことは？

何のために読むのかを意識

①書くために読む。
②読んだことをポップに表す。

よりポップが豊かなものになる。

○ポップを豊かにしていくために…

紹介文⇒ポップ作成(2h⇒7h⇒9h)

※どんどん活動の内容が大きくなる。このことは非常に大事なこと。

⇒その活動の中で、大事になってくることは？

このプロセスを大事にする。

書くためにもう一度読む

関係性

読んだことを取り入れる

何のために読み、何のために書いているのか

<読む>

批判的かつ客観的に読む。

<書く>

より豊かに、より簡潔に

⇒そのためには



事実：教材文の「語」「文章」

結論：作品の「良さ」や「売り」
⇒表現の効果の価値

理由づけ：叙述＋解釈
⇒表現の効果の具体

主題が見えてくる。
↓
ポップの裏側には主題が隠されている。

受講者の感想

- 批判的な解釈が多く、類推的な解釈が弱かったと感じた。相互を意識しながら授業を進めることが大切だと感じた。
- 子供たちにどんな力をつけさせたいのか、目指すところはどこなのか、普段の授業にも生かしていきたい。
- 子供自身が、読みを深めようとする力を育てたい。